

高校公民プリント（過去問類似）

西洋の近現代思想 No.6

名前

得点

/9

問1 「あれもこれも」という迷いの中で感性的快楽を追う段階から、道徳的義務を果たす段階を経て、最終的に「あれかこれか」の決断を迫られ、神の前に一人で立つことによって絶望を克服し、真の実存を回復すると説いたデンマークの思想家は誰か。

(2021年 全国公立入試 類似)

1. ニーチェ 2. ヤスパース 3. キルケゴール 4. ハイデッガー

問2 私的所有の発生が社会の不平等や対立を生むと考え、各人が自らの権利を共同体に全面的に譲渡して「一般意志」に従う社会契約を唱えた、18世紀フランスの思想家は誰か。

(2020年 全国公立入試 類似)

1. ボダン 2. カント 3. ロック 4. ルソー

問3 ルネサンス期において、人間はあらかじめ固定された本性を持たず、自らの自由意志によって自己のあり方を決定できる存在であるとし、そこに人間の尊厳の根拠を求めたイタリアの思想家は誰か。

(2015年 全国公立入試 類似)

1. マルシリオ・フィチーノ 2. ジョルダノ・ブルーノ 3. ピコ・デラ・ミランドラ 4. ニッコロ・マキアヴェリ

問4 自らの社会的地位や能力、価値観などを一切知らない「無知のヴェール」に包まれた仮定の状況（原初状態）を想定し、そこでの合意を通じて、最も不遇な人々の境遇を改善する「格差原理」や、公正な機会の均等を満たす社会正義の原理を導き出した、アメリカの哲学者は誰か。

(2012年 全国公立入試 類似)

1. サルトル 2. アレント 3. サンドル 4. ロールズ

問5 J.S.ミルは、最大多数 of 最大幸福を実現するための道徳的義務の根拠として、法律や世論による外的な規制だけでなく、他者の幸福を願う同情心や、社会の利益に反したときに生じる良心の呵責といった道徳感情を重視した。このような、自己の行為を内的に規制する道徳的な制裁を何というか。

(2020年 全国公立入試 類似)

1. 内面的制裁 2. 道徳的制裁 3. 外面的制裁 4. 物理的制裁

問6 リーアム・マーフィーとの共著『税と正義』において、課税前の所得が個人の絶対的な保有物であり、政府が課税によってそれを奪い取っているという見方を「神話」として批判した、アメリカの哲学者は誰か。彼は、個人の所有権は税制を含む社会制度の枠組みを通じて初めて定義されるものであると主張した。

(2016年 全国公立入試 類似)

1. トマス・ネーゲル 2. マイケル・サンドル 3. ロバート・ノージック 4. ジョン・ロールズ

問7 功利主義が少数者の犠牲を容認しかねない点を批判し、1971年の著書で「公正としての正義」を提唱したアメリカの哲学者がいる。彼は、自身の立場や能力について何も知らない「無知のヴェール」に包まれた状態を想定し、そこから導かれる正義の原理として、最も不遇な立場にある人々の状況を最大限に改善する場合にのみ不平等を容認する原理などを主張した。この人物は誰か。

(2026年 全国公立入試 類似)

1. アレント 2. ロールズ 3. ノージック 4. サンドル

問8 歴史の記述において、強者や勝者の都合による恣意的な取捨選択を排し、過去の犠牲者や忘れ去られようとしている事実を記録にとどめるべきだとする倫理的態度が議論される。これに関連して、第二次世界大戦後のドイツにおいて、戦争における自国民の責任を「刑法上の罪」「政治上の罪」「道徳上の罪」「形而上学的な罪」の4つに分類し、他者の苦痛や犠牲に対して生き残った者が負う精神的連帯の責任を直視することを説いた、実存主義の哲学者は誰か。

(2021年 全国公立入試 類似)

1. アルベール・カミュ 2. アンリ・ベルクソン 3. マックス・ウェーバー 4. カール・ヤスパース

問9 デカルト以来の心身二元論を克服しようとし、人間の肉体は単に観察される物理的な対象（客体）であるにとどまらず、世界を知覚し経験する能動的な存在（主体）でもあるという「身体の両義性」を唱えた、フランスの現象学者は誰か。

(2012年 全国公立入試 類似)

1. レヴィ=ストロース 2. ジャック・デリダ 3. メルロ=ポンティ 4. ジル・ドゥルーズ

答え合わせ・解説 No.6

問1	答え 3 キルケゴール	「あれかこれか」の選択を迫られる中で、主体的な真理を求めたデンマークの思想家である。彼はヘーゲルの客観的・体系的な哲学を批判し、個々の人間の具体的な生き方を重視する実存主義の先駆者となった。
問2	答え 4 ルソー	私的所有の発生を不平等の起源とし、共同体への権利譲渡と一般意志への服従を説いたのはルソーである。彼は『社会契約論』や『人間不平等起源論』を著し、直接民主制を志向する独自の社会契約説を展開して、後のフランス革命に大きな影響を与えた。
問3	答え 3 ピコ・デラ・ミランドラ	ルネサンス期のイタリアの哲学者である彼は、著書『人間の尊厳について』において、神が人間にのみ自由意志を与えたとし、人間は自らの選択によって天使のような高貴な存在にも、獣のような卑しい存在にもなり得ると主張して、人間の尊厳を説いた。
問4	答え 4 ロールズ	「無知のヴェール」という仮定の状況から、誰もが合意できる正義の原理を導き出そうとした。彼は、最も不遇な人々の利益を最大化する「格差原理」や「公正な機会均等原理」を提示し、福祉国家的な再分配を正当化する理論的基礎を築いた。
問5	答え 1 内面的制裁	J.S.ミルは、ベンサムが提示した法律や世論、宗教などによる「外的制裁」だけでは不十分であると考え、人間が本来持っている他者への同情や社会連帯の感情に基づく「内面的制裁（良心の制裁）」を重視した。彼は、教育や社会制度を通じてこの内面的な道徳感情を育むことが、個人が自発的に社会全体の幸福に貢献するために不可欠であると主張した。
問6	答え 1 トマス・ネーゲル	リーアム・マーフィーとトマス・ネーゲルは、共同で著した『税と正義』の中で、課税前の所得が個人の絶対的な権利に属するという考え方を否定した。彼らによれば、所有権という権利自体が、税制や法制度などの社会制度が整備されて初めて法的に保障されるものであり、したがって税は個人から財産を奪うものではなく、所有権を構成するシステムの一部であるとされる。
問7	答え 2 ロールズ	功利主義に代わる正義の基準として、契約論的アプローチから「公正としての正義」を構想した。自らの属性が不明な「無知のヴェール」の仮定から、最も不遇な人々の状況を改善する場合にのみ不平等を認める「格差原理」などを導き出した。
問8	答え 4 カール・ヤスパース	第二次世界大戦後のドイツにおいて、戦争責任を多角的に分析したのがカール・ヤスパースである。彼は著書『罪の問い』の中で、戦争責任を4つに分類した。そのうち「形而上学的な罪」は、同胞や他者が不当に犠牲になっているにもかかわらず、自らが生き延びてしまったことに対する、人間としての連帯責任を指す。これは、過去の犠牲者の記憶を忘れずに引き受けるという歴史的倫理の態度と深く結びついている。
問9	答え 3 メルロ＝ポンティ	デカルト的な精神と身体を二分する二元論に対し、身体を主観（主体）と客観（客体）の両義的な存在として捉え直す身体論を展開した。彼は現象学的手法を用いて、知覚における身体の先駆的な役割を強調した。

高校公民プリント（過去問類似）

西洋の近現代思想 No.7

名前

得点

/10

問1 19世紀のドイツの思想家であり、資本主義経済の仕組みを批判的に分析した人物は誰か。彼は、工場や機械などの生産手段を私有する資本家と、自らの労働力を売るしかない労働者との間に階級分化が生じ、両者の利害が対立する構造を明らかにした。（2023年 全国公立入試 類似）

1. ラサルル 2. マルクス 3. フーリエ 4. オーウェン

問2 「最大多数の最大幸福」を唱えたイギリスの思想家は、道徳的配慮の対象を決定する基準について、理性の有無ではなく「苦痛を感じるができるか」という能力を重視し、動物も配慮の対象に含めるべきだと主張した。この思想家は誰か。（2025年 全国公立入試 類似）

1. ハチソン 2. ベンサム 3. シンガー 4. ミル

問3 16世紀初頭、ギリシア語原典の聖書研究を通じてキリスト教本来の精神に立ち返ることを主張したネーデルラント出身の人文主義者は誰か。彼は著書『愚神礼賛』において、戦争や贖罪札の販売に熱中する教会の墮落や聖職者の腐敗を女神に語らせる形で鋭く風刺し、後の宗教改革にも大きな影響を与えた。（2011年 全国公立入試 類似）

1. ロイヒリン 2. ラブレー 3. チョーサー 4. エラスムス

問4 近代の道具的理性がもたらした管理社会を批判しつつ、公共空間において人々が対等な立場で議論を交わし、合意を形成していく「対話的理性」の重要性を説いた、ドイツの社会哲学者は誰か。（2025年 全国公立入試 類似）

1. マルクーゼ 2. ハーバーマス 3. ホルクハイマー 4. アドルノ

問5 「最大多数の最大幸福」を掲げる功利主義が少数者の犠牲を容認しかねないことを批判し、各人が平等な自由をもつべきだとする原理や、不平等が最も不遇な立場の人々の状況を改善する場合にのみ認められるとする原理などを柱とする、公正としての正義を提唱したアメリカの哲学者は誰か。（2026年 全国公立入試 類似）

1. サンドル 2. ロールズ 3. ノージック 4. アレント

問6 16世紀のヨーロッパにおいて、すべての信者は神の前で平等であり、教会や聖職者の仲介なしに直接神と交わることができるとする、プロテスタントの根幹となった思想を何というか。（2025年 全国公立入試 類似）

1. 信仰義認説 2. 職業天職説 3. 万人司祭説 4. 聖書唯一説

問7 ルネサンス期のイタリアの思想家で、著書『人間の尊厳について』の中で、人間は自らの意志によって自らを形成する自由意志を与えられた存在であり、それゆえに尊厳を持つと主張した人物は誰か。（2025年 全国公立入試 類似）

1. ジョルダノ・ブルーノ 2. ピコ・デラ・ミランドラ 3. ニコラウス・クザーヌス 4. マルシリオ・フィチーノ

問8 人間を単なる手段としてのみならず、絶対的な価値を持つものとして、自分と他人のそれを常に同時に目的として尊重すべきであるとする、ドイツの哲学者が提唱した倫理思想を何というか。（2007年 全国公立入試 類似）

1. 感情主義 2. 功利主義 3. 実存主義 4. 人格主義

問9 ドイツの哲学者が提唱した、人間の主観に備わる認識能力が感覚的素材を整理して対象を構成するという、認識と対象の関係を逆転させた認識論上の変革を何と呼ぶか。（2012年 全国公立入試 類似）

1. デカルト的懐疑 2. コペルニクス的転回 3. ヘーゲルの弁証法 4. スピノザの一元論

問10 ヤスパーズの哲学において、死、苦しみ、争い、罪など、人間の力では克服することも回避することもできない、自己の有限性を自覚させる決定的な状況を何と呼ぶか。（2004年 全国公立入試 類似）

1. 限界状況 2. 自己欺瞞 3. 単独者 4. 世界内存在

答え合わせ・解説 No.7

問1	答え 2 マルクス	資本主義社会における生産手段の私有に伴う階級対立を分析し、社会主義への移行の必然性を説いた。主著に『資本論』などがあり、エンゲルスとともに科学的社会主義（マルクス主義）を確立した。その理論は、のちの社会主義運動や経済学に多大な影響を与えた。
問2	答え 2 ベンサム	倫理的配慮の境界線を引く基準として、理性の有無や会話の能力ではなく、苦痛を感じることができるかどうか（被苦能力）を重視した。この見解は、人間以外の動物も苦痛を避けるべき道徳的配慮の対象として視野に入れるべきだという、後の動物解放論に大きな影響を与えた。
問3	答え 4 エラスムス	ギリシア語新約聖書の校訂・出版などの聖書研究を行い、キリスト教本来の精神への回帰を説いたネーデルラントの人文主義者はエラスムスである。彼は著書『愚神礼賛』において、当時の教会の墮落や聖職者の偽善、不寛容を風刺的に批判した。彼の思想はルターらの宗教改革に大きな影響を与えたが、自身はカトリック教会に留まり、教会分裂には反対した。
問4	答え 2 ハーバーマス	道具的理性による「生活世界の植民地化」を批判し、対話的理性に基づく「コミュニケーション的行為の理論」を提唱して、公共空間における合意形成のあり方を模索した。
問5	答え 2 ロールズ	功利主義的な考え方は、社会全体の効用を増やすために少数者の権利や利益が犠牲にされる危険性を孕んでいる。これに対し、この哲学者は社会契約説の手法を現代的に復興させ、誰もが納得できる公正な社会のルール（正義の二原理）を構想した。彼は、社会的・経済的不平等が許容されるのは、公正な機会の平等が保障され、かつ最も不遇な人々の状況が改善される場合（格差原理）のみであると主張し、現代の規範政治理論や福祉国家論に決定的な影響を与えた。
問6	答え 3 万人司祭説	ルターが唱えたこの思想は、すべての信者が司祭であるとするものであり、神の前での平等を強調した。これがのちに、個人の尊厳や権利を重視する近代の人間尊重の精神を生み出す重要な思想的基盤となった。ウィクリフやフスは教皇の権威を批判した先駆者であり、イグナティウス・デ・ロヨラはカトリック側の対抗宗教改革を推進した人物であるため、これらとは区別される。
問7	答え 2 ピコ・デラ・ミランドラ	ピコ・デラ・ミランドラは、ルネサンス期を代表するイタリアの人文主義者である。彼は『人間の尊厳について』において、神が人間にのみ「自由意志」を与え、自らのあり方を自分で決定できる存在として創造したとし、これこそが人間の尊厳の根拠であると説いた。これは、中世の決定論的な人間観を覆す画期的な思想であった。
問8	答え 4 人格主義	人間を単なる手段として扱うのではなく、絶対的な価値を持つ人格として、自分と他人の人格を常に目的として尊重することを求める思想である。これは、自律的な道徳法則に従う主体としての人間（人格）に無限の価値を認める立場に基づいている。
問9	答え 2 コペルニクスの転回	カントは、認識が対象に従うのではなく、主観の認識能力によって対象が構成される（対象が認識に従う）と考えた。この認識論における劇的な発想の転換は、天文学における地動説への転換になぞらえて「コペルニクスの転回」と呼ばれる。
問10	答え 1 限界状況	人間が自らの力ではどうすることもできない壁に突き当たったとき、自己の有限性を自覚して絶望するが、それを契機に超越者と出会い、真の実存に目覚めることができるとされる。このような死や苦しみ、争い、罪などの状況を、ヤスパースは「限界状況」と名付けた。

高校公民プリント（過去問類似）

西洋の近現代思想 No.8

名前

得点

/9

問1 16世紀フランスの思想家であり、宗教戦争による混乱と殺戮を目の当たりにする中で、独善的な独断や偏見を排し、自己の理性の限界を自覚することを説いた人物は誰か。彼は「私は何を知っているか」（ク・セ・ジュ）という問いかけを通じて、謙虚に自己吟味を行う懐疑主義の立場を示し、のちのモラリストの先駆者となった。（2017年 全国公立入試 類似）

1. ラ・ブリュイエール 2. モンテーニュ 3. パスカル 4. ラ・ロシュフコー

問2 著書『自由論』において、他者に実害を及ぼす恐れのある行為のみが規制の対象となるべきであり、自己の安全や道徳的善行の強制を理由に個人の自由を制限することは許されないと主張した、19世紀イギリスの功利主義思想家は誰か。（2010年 全国公立入試 類似）

1. ハーバート・スペンサー 2. ジョン・スチュアート・ミル 3. トーマス・ヒル・グリーン 4. トーマス・ロバート・マルサス

問3 キリスト教的な道徳を弱者の怨恨（ルサンチマン）に基づく「奴隷道徳」であると批判し、伝統的な価値観の崩壊（ニヒリズム）を乗り越えるために、自らの生を能動的に肯定する「超人」の思想を説いたドイツの思想家は誰か。（2019年 全国公立入試 類似）

1. サルトル 2. ハイデガー 3. ニーチェ 4. ヤスパース

問4 デカルトの物心二元論やスピノザの一元論に対し、世界の根源的な実体は無限に存在する「モノド（単子）」であるとし、それらは互いに影響を及ぼし合わないが、神によってあらかじめ調和が保たれるように設定されているという「予定調和説」を唱えたドイツの哲学者は誰か。（2025年 全国公立入試 類似）

1. スピノザ 2. マルブランシュ 3. デカルト 4. ライプニッツ

問5 国家が成立する前の自然状態を、各人が自己保存のために互いに争い合う混乱した状況であると捉え、これを避けるために人々が契約を結んで自然権を強力な主権者に譲渡することで国家が設立されると説いた、著書『リヴァイアサン』で知られるイギリスの思想家は誰か。（2015年 全国公立入試 類似）

1. ルソー 2. ホブズ 3. ロック 4. スピノザ

問6 歴史の進歩や普遍的な社会正義を掲げて未来の理想社会を設計しようとする立場に対し、そうした全体的なシステムを批判し、目の前で苦しんでいる具体的な他者からの呼びかけに直接応答することに倫理の根源を見出す思想がある。このような、自己の枠組みを超えて迫ってくる「他者の顔」に対する無限の責任を説き、近代の主體的自己中心性を批判した現代の哲学者は誰か。（2015年 全国公立入試 類似）

1. フッサール 2. ハイデガー 3. レヴィナス 4. ドゥルーズ

問7 学校で学んだ従来の学問に確実な基礎がないと疑問を抱いたフランスの哲学者が、学校を去って旅に出て、様々な身分の人々との交わりや経験を通じて真理を探究しようとした。この探究の対象を、彼は著書『方法序説』の中で何と表現したか。（2024年 全国公立入試 類似）

1. 精神と身体の二元論 2. 世間という大きな書物 3. 明晰かつ判明な観念 4. 我思う、ゆえに我あり

問8 ルネサンス期のイタリアにおいて、政治を宗教や道徳から切り離し、人間の現実のありようを踏まえた客観的な統治の技術として捉えた思想家は誰か。彼は、国家の維持と秩序のために、君主はライオンのような強さと狐のような賢さを兼ね備えて統治を行うべきであると主張した。（2019年 全国公立入試 類似）

1. エラスムス 2. ペトラルカ 3. マキャヴェリ 4. モンテーニュ

問9 イギリスの思想家ロックが1689年に公刊し、政府が市民の信託に反して権力を濫用し自然権を侵害した場合には、市民は政府に対して抵抗し新たな政府を設立する権利を持つという思想を展開して、のちのアメリカ独立革命などに大きな影響を与えた主著は何か。（2023年 全国公立入試 類似）

1. 市民政府二論 2. 実践理性批判 3. 代議制統治論 4. 社会契約論

答え合わせ・解説 No.8

問1	答え 2 モンテーニュ	16世紀のフランスでは、カトリックとプロテスタントの対立によるユグノー戦争が勃発し、人々は自らの信仰の絶対性を主張して激しく争った。こうした悲惨な現実を背景に、人間が持つ理性の不完全さを自覚し、「私は何を知っているか」(ク・セ・ジュ)と問いかけることで、独断や偏見から脱して謙虚に自己吟味を行う懐疑主義が唱えられた。主著『エッセー(随想録)』に示されたこの思想は、のちのパスカルなどのモラリストに大きな影響を与えた。
問2	答え 2 ジョン・スチュアート・ミル	功利主義の思想を発展させたイギリスの哲学者であり、著書『自由論』の中で「他者危害の原則」を提唱した。彼は、個人の自由に対する社会や国家の介入が正当化されるのは他者への危害を防止する場合のみであるとし、個人の自律性を重視する質的功利主義の立場をとった。
問3	答え 3 ニーチェ	19世紀後半のドイツの哲学者であるニーチェは、「神は死んだ」と宣言し、従来からのキリスト教的価値観が崩壊したニヒリズムの時代を分析した。彼は、弱者が強者に対して抱く怨恨(ルサンチマン)から生じた道徳を「奴隷道徳」と呼び、これを超克して、永劫回帰の運命を愛し、自ら新たな価値を創造する「超人」となることを目指すべきだと主張した。
問4	答え 4 ライプニッツ	デカルトが精神と物質の二元論を唱え、スピノザが唯一の実体としての神を認める汎神論を唱えたのに対し、ライプニッツは無数の実体である「モノイド」を想定した。モノイドは互いに独立しているが、神のあらかじめ定めた調和(予定調和説)によって全体として秩序が保たれていると考えた。
問5	答え 2 ホッブズ	自然権を自己保存の権利とし、国家のない自然状態では人々が互いに争う「万人の万人に対する闘争」に陥ると考えた。この混乱を避けるために、人々は契約を結んで自然権を主権者に譲渡し、国家を設立すると説明した。この思想は、絶対王政を擁護する論理としても利用された。
問6	答え 3 レヴィナス	全体性(普遍的なシステムや歴史の進歩)が他者を排除・抑圧することを批判し、自己の理解を超えた絶対的な他者(「顔」)からの呼びかけに対して、受動的に応答する責任こそが倫理の出発点であると主張した。この思想は、普遍的な正義の設計図を疑い、今ここにある具体的な他者の苦しみに向き合う実践を重視する立場と深く結びついている。
問7	答え 2 世間という大きな書物	デカルトは、学校で学んだスコラ哲学などの学問に確実な基礎がないと疑問を抱き、学校を去って「世間という大きな書物」を学び、自己の理性を頼りに確実な真理を探究した。これがのちに「方法的懐疑」を経て「私は考える、ゆえに私はある」という哲学の第一原理の発見へとつながった。
問8	答え 3 マキャヴェリ	15世紀から16世紀にかけてのイタリアの思想家である彼は、分裂状態にあった祖国の統一を願い、現実主義的な政治思想を展開した。彼は、政治をキリスト教的な道徳や倫理から独立させ、国家の維持・強化のためには非道徳的な手段も辞さない君主のあり方を説いた。この思想はのちに「マキャヴェリズム」と呼ばれ、近代政治学の先駆となった。
問9	答え 1 市民政府二論	ロックは名誉革命を擁護する立場から『市民政府二論』(『統治二論』)を著し、社会契約説に基づき、政府が市民の信託に反して権力を濫用した場合には、市民は抵抗権(革命権)を行使して新たな政府を樹立できると主張した。この著作はアメリカ独立宣言などに多大な影響を与えた。

高校公民プリント（過去問類似）
西洋の近現代思想 No.9

名前

得点

/10

問1 「最大多数の最大幸福」を唱えた思想家は、人間を快楽を求め苦痛を避ける利己的な存在と捉えた。彼は、個人の利己的な行為を規制し社会の秩序を維持するために、物理的、政治的（法律的）、道徳的、宗教的という四つの強制力が必要であると主張した。このような、個人の外部から加えられる強制力を何と呼ぶか。（2023年 全国公立入試 類似）

1. 道徳的制裁 2. 内面的制裁 3. 外面的制裁 4. 物理的制裁

問2 人間の認識能力の限界と仕組みを明らかにするため、経験論と合理論を統合する立場から著された哲学書である。感性によって受け取られた素材を、悟性に備わる先天的（ア・プリオリ）な枠組みで構成することによって客観的な認識が成立すると主張し、のちのドイツ観念論に決定的な影響を与えた、1781年に刊行された主著は何か。（2015年 全国公立入試 類似）

1. 純粋理性批判 2. 実践理性批判 3. 歴史哲学講義 4. 新人間知性論

問3 核兵器の登場による人類の破滅を回避するため、アインシュタインらとともに共同声明を発表し、科学者が社会的・平和的責任を果たすべきだと訴えた、著書『幸福論』などでも知られるイギリスの哲学者は誰か。（2016年 全国公立入試 類似）

1. サルトル 2. デューイ 3. ラッセル 4. アラン

問4 ヘーゲルは、個人の独立性と私的な欲望が追求される場であり、一方で貧富の差や対立が生じるため「喪失された人倫」とも呼ばれる、家族に次ぐ人倫の第二段階の共同体を何と呼んだか。（2007年 全国公立入試 類似）

1. 主観精神 2. 客観精神 3. 絶対精神 4. 市民社会

問5 「満足した豚であるよりは、不満足な人間である方がよく、満足した患者であるよりは、不満足なソクラテスである方がよい」と述べ、快楽には量的な違いだけでなく、精神的快楽のような質的な高低の差が存在することを主張して、先駆者の功利主義思想を修正・発展させたイギリスの哲学者は誰か。（2025年 全国公立入試 類似）

1. H. スпенサー 2. D. ヒューム 3. T. H. グリーン 4. J. S. ミル

問6 快楽を質的な差異のない量的なものとして捉え、客観的に計算可能であるとする思想において、道徳や立法の基準として掲げられた、社会全体の幸福のあり方を示す標語は何か。（2005年 全国公立入試 類似）

1. 質的功利主義 2. 最大多数の最大幸福 3. 他者危害の原則 4. 最大幸福の原理

問7 功利主義が少数者の権利を犠牲にする可能性を批判し、自らの立場や能力がわからない「無知のヴェール」を被った状態での合意形成を構想した。そして、社会的・経済的な不平等が許容されるのは、最も恵まれない人々の状況を最大に改善する場合などに限られるとする正義の原理を唱えた、アメリカの哲学者は誰か。（2016年 全国公立入試 類似）

1. アレント 2. ロールズ 3. テイラー 4. サンドル

問8 実定法の正当性や善悪を判断する外部の批判的視点の一つであり、社会全体の幸福や効用を最大化することを法や制度の評価基準とする、18～19世紀のイギリスで発展した思想を何というか。（2007年 全国公立入試 類似）

1. 功利主義 2. 合理主義 3. 実用主義 4. 経験主義

問9 イギリスの哲学者ロックは、デカルトラが主張した生得観念を否定し、人間の心は生まれつき何も書き込まれていない状態であり、すべての知識は後天的な経験から得られると主張した。この「何も書き込まれていない状態」を指す、ラテン語に由来する哲学用語は何か。（2016年 全国公立入試 類似）

1. タブラ・ラサ 2. ア・プリオリ 3. ア・ポステリオリ 4. コギト・エルゴ・スム

問10 近代の理性が自然や人間を支配するための手段（道具的理性）に変質したことを批判したドイツの哲学者が、これに対抗するものとして提唱した、人々が対等な立場で自由に議論を交わし、共通の理解に基づいて合意を形成するために発揮されるべき相互理解を目指す理性を何と呼ぶか。（2025年 全国公立入試 類似）

1. 主観的理性 2. 対話的理性 3. 批判的理性 4. 道具的理性

答え合わせ・解説 No.9

問1	答え 3 外面的制裁	ベンサムは、個人の利己的な行為をコントロールするために、法律や世論、宗教的戒律などの外部からの強制力を重視した。これに対し、のちにJ.S.ミルは、同情や社会感情に基づく良心の呵責などの内面的制裁を重視した。
問2	答え 1 純粹理性批判	カントの三批判書の一つであり、人間の認識能力（理論理性）の限界を明らかにした著作である。感性と悟性の協働によって認識が成立する仕組みを説明し、従来の形而上学を批判的に再構成した。
問3	答え 3 ラッセル	バートランド・ラッセルは、論理学や認識論の分野で多大な業績を残したイギリスの哲学者であり、同時に平和運動家としても精力的に活動した。彼はアインシュタインらとともに核兵器廃絶と科学者の社会的責任を訴える宣言を発表し、科学技術の進歩が人類の生存を脅かすことへの強い危機感を示した。
問4	答え 4 市民社会	ヘーゲルは、人倫の第二段階として、個々人が自らの欲求を満たすために活動する場を市民社会と呼んだ。市民社会では、市場経済を通じて個人が独立して行動するが、貧富の格差や対立が生じるため、人倫の分裂・喪失の段階とされる。これがのちに国家において統合される。
問5	答え 4 J. S. ミル	ベンサムが提唱した、快楽をすべて数量的に計算可能とする量的功利主義に対し、快楽には量だけでなく質的な差異（精神的快楽の優位性など）があるとする質的功利主義を提唱した。これにより、単なる肉体的・物質的な快楽の追求にとどまらない、より高次の自己実現や個性の発展を重視する功利主義の立場を確立した。
問6	答え 2 最大多数の最大幸福	個人の快楽の総和が社会全体の幸福であると考え、より多くの人々により多くの幸福をもたらす行為を善とする基準として提示された。この思想では、快楽はすべて量的に換算可能であり、苦痛はそこから差し引かれるものとされた。
問7	答え 2 ロールズ	功利主義の「最大多数の最大幸福」が個人の尊厳や権利を脅かすことを批判し、公正な社会制度の基礎となる正義の原理を追究した。彼は、自らの属性を知らない「無知のヴェール」の仮定から、最も不遇な人々の便益を最大化する「格差原理」などが導き出されると主張した。
問8	答え 1 功利主義	法律や制度が適切であるかどうかを、単に既存のルールに従うこと（実定法主義）ではなく、それがもたらす結果としての幸福の量によって吟味する立場である。ベンサムは「最大多数の最大幸福」を掲げ、法や政治の改革を推進する基準としてこの思想を提示した。
問9	答え 1 タブラ・ラサ	ロックは主著『人間知性論』において、人間の心を「タブラ・ラサ（白紙）」に例え、あらゆる観念は感覚と内省という経験を通じて後天的に得られると説明した。これは経験論哲学の根本的な立場を示す象徴的な言葉である。
問10	答え 2 対話的理性	近代の理性が効率性や自己保存の手段となる「道具的理性」に陥ったのに対し、他者との対等なコミュニケーションを通じて合意形成を図るための理性が提唱された。これは、市民が自由に議論を行う「公共空間」を再建するための基盤とされる。

高校公民プリント（過去問類似）

西洋の近現代思想 No.10

名前

得点

/10

問1 民主主義社会において、画一的な世論が少数派の多様な意見や個性を抑圧する「多数派の専制」の危険性を指摘し、他者に危害を及ぼさない限り個人の自由は制限されるべきではないという原則を提示した、イギリスの思想家による著書は何か。 (2015年 全国公立入試 類似)

1. 『資本論』 2. 『自由論』 3. 『国富論』 4. 『君主論』

問2 「実存は本質に先立つ」と主張し、人間はあらかじめ決められた本質を持たず、自らの選択と行動によって自己を形成していく対自存在であると説いた、フランスの実存主義哲学者は誰か。 (2016年 全国公立入試 類似)

1. サルトル 2. マルセル 3. ブーバー 4. ニーチェ

問3 14世紀から16世紀にかけてのヨーロッパでは、中世の神中心の価値観から脱却し、古典古代の文化を手がかりに、人間のありのままの姿や現実世界の美しさを肯定しようとする文芸・芸術上の革新運動が起こった。この運動の根底にあり、人間の尊厳や個性を重んじる人間中心の精神を何というか。 (2025年 全国公立入試 類似)

1. プラトニズム 2. ネオプラトニズム 3. マキャベリズム 4. ヒューマニズム

問4 人間は感性的な欲求に支配される存在であるが、同時に実践理性によって自ら道徳法則を立て、これに自発的に従うことができる。このようなあり方を「自律」と呼び、互いの人格を単に手段としてのみ扱うのではなく、常に同時に目的として尊重し合う理想の共同体を「目的の王国」と名付けた、ドイツ観念論の哲学者は誰か。 (2023年 全国公立入試 類似)

1. カント 2. シェリング 3. フィヒテ 4. ヘーゲル

問5 ドイツの哲学者が提唱した、人間の主観に備わる認識能力が感覚的素材を整理して対象を構成するという、認識と対象の関係を逆転させた認識論上の変革を何と呼ぶか。 (2012年 全国公立入試 類似)

1. デカルト的懐疑 2. コペルニクスの転回 3. ヘーゲルの弁証法 4. スピノザの一元論

問6 学校で学んだ従来の学問に確実な基礎がないと疑問を抱いたフランスの哲学者が、学校を去って旅に出て、様々な身分の人々との交わりや経験を通じて真理を探究しようとした。この探究の対象を、彼は著書『方法序説』の中で何と表現したか。 (2024年 全国公立入試 類似)

1. 精神と身体の二元論 2. 世間という大きな書物 3. 明晰かつ判明な観念 4. 我思う、ゆえに我あり

問7 近代社会において、規則に基づく専門的な分業や階層的な組織運営によって効率性を追求する管理体制が、社会全体を覆うことで個人の自由や主体性を抑圧する危険性について、ドイツの社会学者ウェーバーが指摘したこの組織形態を何というか。 (2016年 全国公立入試 類似)

1. 分業制 2. 官僚制 3. 階層制 4. 集権制

問8 「実存は本質に先立つ」と主張し、人間はあらかじめ定められた本質を持たず、自らの行動と決断によって自己を形成していく存在であるとした。この、神なき世界において人間が自らの意志で行動を選択する責任を負わされている状態を「自由の刑に処せられている」と表現したフランスの哲学者は誰か。 (2006年 全国公立入試 類似)

1. ニーチェ 2. マルセル 3. サルトル 4. ブーバー

問9 現代の科学技術文明において、人間は自然を単なる利用可能な資源（用具）として榨び取る仕組みに支配されていると批判し、人間はこのような支配から離れて、根源的な存在の呼びかけに耳を傾けるべきだと主張したドイツの実存哲学者は誰か。 (2006年 全国公立入試 類似)

1. ハイデッガー 2. ヤスパース 3. マルセル 4. サルトル

問10 個人の身体や正当に獲得した財産に対する絶対的な権利を重視し、社会全体の福祉や弱者救済を目的とするものであっても、国家による課税や財産の強制的な再分配は個人の権利を侵害する不当な介入であるとして、政府の役割を最小限に抑えるべきだと主張する、現代の政治・倫理思想を何というか。 (2026年 全国公立入試 類似)

1. イガリタリアニズム 2. リベラリズム 3. コミュニタリアニズム 4. リバタリアニズム

答え合わせ・解説 No.10

問1	答え 2 『自由論』	ミルは著書において、民主主義社会における画一的な世論が、少数派の多様な意見や個性を抑圧する「多数派の専制」を論じ、個人の自由を不当な社会的圧力から保護することの重要性を主張した。また、個人の自由に対する制限は、他者に危害を及ぼすのを防ぐ場合にのみ正当化されるといって「他者危害の原則（危害原則）」を唱えた。
問2	答え 1 サルトル	『実存主義とは何か』などの著作で知られるフランスの哲学者サルトルは、人間を、自己を意識し未来に向けて自己を投企していく対自存在として捉えた。彼は、人間にはあらかじめ定められた本質はなく、自らの自由な選択によって自己を創り出していく存在（実存は本質に先立つ）であると主張し、社会的・政治的実践（アンガージュマン）の重要性も説いた。
問3	答え 4 ヒューマニズム	14世紀からイタリアを中心に始まったルネサンスの根底には、中世の神中心・教会中心の権威主義的な人間観から脱却し、ギリシア・ローマの古典古代の文化を手がかりにして、人間らしい生き方や個性の自由な開花を求めようとする精神があった。この人間中心の精神はヒューマニズム（人文主義）と呼ばれる。芸術分野においても、遠近法などを用いて現実世界や人間の肉体の美しさをありのままに表現する試みがなされた。
問4	答え 1 カント	実践理性が自ら立てた道徳法則に自発的に従うことを「自律」とし、これを真の自由とみなした。また、互いの人格を手段としてのみならず目的として尊重し合う理想の共同体を「目的の王国」と呼んだ。この思想を唱えたのは、18世紀ドイツの哲学者であるイマヌエル・カントである。
問5	答え 2 コペルニクスの転回	カントは、認識が対象に従うのではなく、主観の認識能力によって対象が構成される（対象が認識に従う）と考えた。この認識論における劇的な発想の転換は、天文学における地動説への転換になぞらえて「コペルニクスの転回」と呼ばれる。
問6	答え 2 世間という大きな書物	デカルトは、学校で学んだスコラ哲学などの学問に確実な基礎がないと疑問を抱き、学校を去って「世間という大きな書物」を学び、自己の理性を頼りに確実な真理を探究した。これがのちに「方法的懐疑」を経て「私は考える、ゆえに私はある」という哲学の第一原理の発見へとつながった。
問7	答え 2 官僚制	ウェーバーは、近代社会の合理化に伴って発達した、規則による支配と専門的な分業を特徴とする組織形態が、人間を機械の歯車のように管理・支配し、個人の主体性や創造性を奪う危険性を指摘した。
問8	答え 3 サルトル	人間にはあらかじめ決められた本質や拠って立つべき絶対的な価値基準がなく、常に自ら選択し行動する責任を負わされている状態を「自由の刑に処せられている」と表現した。この思想を展開したのは、フランスの実存主義哲学者である。
問9	答え 1 ハイデgger	現代の科学技術が自然を単なるエネルギー資源や利用可能な道具として支配・管理するあり方を批判し、人間がその技術的な枠組み（ゲシュテル）に囚われていることを指摘した。彼は、人間が本来のあり方を取り戻すためには、技術による支配から脱し、根源的な存在そのものの現れや呼びかけに静かに耳を傾ける態度が必要であると説いた。
問10	答え 4 リバタリアニズム	個人の自由や自己所有権を最大限に尊重する立場であり、国家による介入や財産の強制的な再分配を最小限に抑えるべきだと主張する。ロールズらが提唱する福祉国家的な再分配を批判する文脈で、ノージックらによって理論化された。